



ホンドテン

本年度は、赤谷センターや赤谷プロジェクトの新たな取組を紹介していきます。第1回として、

**【ホンドテンモニタリングを活用した環境教育教材の開発】**について検討状況をご紹介します。

ホンドテンは日本全国各地、海岸近くから奥山まで広く生息している身近な動物です。このテンは、何でも食べるのが特徴で、ネズミはもちろん、サワガニが好物で、バツタ



テンモニ調査の状況

類や甲虫類も好物です。樹上のリスや鳥も襲います。植物では、ヤマブドウ、サルナシ等も食べ、日本に暮らすほ乳類の中でもトップクラスの雑食性を誇ります。

このホンドテンは、ネズミ等の小動物を食べることで、その数を調整し、植物の実を食べながら、糞として種子を散布するといった森林の生態系の中の役割を果たしています。

赤谷プロジェクトでは、サポーター（ボランティア）が中心となってテンの糞を採取し、プロジェクトが分析・評価するホンドテンモニタリング調査（以下…テンモニという。）を約8年間にわたって行ってきました。その数は4198サンプルにも及びます。この成果を環境教育に生

**【当面の課題】**

かすべく新たな取組みを始めました。

**【テンモニからはじめる森林環境学習】**

ホンドテンのフイールドサイン（動物の痕跡（糞や足跡））を探す（動物の痕跡（糞や足跡））を探す長年のモニタリング活動で培われてきたノウハウを活用し、ホンドテンが生息する全国を舞台に「人と森林（自然）とのつながりの新たな扉を開く」日本初？のホンドテンにスポットを当てた自然観察ガイドブックなどを赤谷プロジェクトサポーターと協働で作成したいと考えています。

**【当面の課題】**

○ボランティアによるテンモニ調査の継続

○センサーカメラによる、ホンドテ



テンモニ調査に参加した高校生

の撮影

○ホンドテンの餌となる動植物及び生息環境の調査

などが、当面の課題となっており、

すが、昨年までにテンモニ調査を実施していた、通称…テンモニ隊の皆様及び足立高行先生（応用生態技術研究所所長）が引き続き協力していただけることとなりました。

**【アウトプットのイメージ】**

○テンモニ調査をとおして、フイールドサインの見つけ方を体験しながら、森林の生態系について学び、人と森林や自然との関わり方について考えたいといった、いわゆる「ホンドテンの目から見える環境教育実践マニュアル（仮称）」の作成を検討します。

○ホンドテンにスポットを当てた、自然観察会等の開催。（例…「テンの付くもの探せ！」「テンモニ調査と自然観察会」テン糞から見える自然環境」など）

○作成した本・冊子には、市民との協働で活動するためのノウハウ等も掲載したいと考えています。

赤谷センターが設置され、今年度で11年目を迎えます。赤谷センターでは、赤谷プロジェクトの10年間で培った知見等を活用するための様々な新たな取組を進めたいと考えています。